

日々の練習成果が見事に結実 大学グリークラブが全国大会へ



「またみんなで歌いたい!」と高校グリークラブ出身者が中心となり、今年4月に誕生した金城学院大学グリークラブが中部大会で金賞に輝き、全国大会へ出場します。

金城学院大学グリークラブ
文学部英語英米文化学科

高野沙由里さん

9月26・27日に富山県魚津市で「中部合唱コンクール」が行われ、金城学院大学グリークラブが出場。見事金賞に輝き、全国大会への切符を手にしました。

グリークラブは今年4月に結成、現在は同好会として週2回練習を行っています。20名の部員の大半が中学・高校のグリークラブ出身者なので全体的に和気あいあいとした雰囲気なのが特徴。しかしひとたび練習となるととても厳しく、部員同士で批評しあいながら互いの技術を向上させています。時には後輩が先輩の歌を聴いて批評することも。また大学の授業やアルバイトなどの都合で全員が揃うことはなかなか難しい中、練習日を多く設定

し、集まったメンバーでコツコツと練習を積み重ねます。こうした日々の練習が今回のすばらしい結果につながったのです。

今大会の課題曲は神話をもとにしたシューマンの「Der Wasserman (水の精)」。盛り上がる部分で感情を込めるために、曲の物語を一度みんなで絵にするなどして、歌声に表情が出るように心がけました。また自由曲はキリスト教の金城生らしく「Messe A Trois Voix」と「Gloria Excelsis Deo」を選曲。これは部員の半数が高校時代に行ったヨーロッパ演奏ツアーで歌ったもので



日々練習を重ねるメンバー。今後は子どもからお年寄りまで親しまれる曲を歌い、合唱の固いイメージをなくすことが目標

非常に思い出深い曲です。どちらも大変のびやかに美しく歌い上げることができました。

今大会では金賞以外にも「魚津市長賞」を受賞。グリークラブの全国大会への出場は愛知県初です。「今回の県代表をきっかけにグリークラブの活動をさらに活発にしていきたい」と高野さん。全国大会は11月22・23日に岡山県で開催。グリークラブの皆さんのさらなる活躍を期待します。

2008年度

聖句
標語

『耳を傾けて聞き、
わたしのもとに来るがよい。
聞き従って、魂に命をえよ。』

イザヤ書 第55章3節

人間は神の命の息を吹き入れて生きるものとされました。神に近づき、神の言葉を聞き、祈り、賛美をすることにより、神の御心に従った生活をする事ができます。

クリスマスが与える感激

ルカによる福音書には、イエス・キリストに対する偉大な信仰告白が記されています。「キリストは万民のために整えてくださった救いで、異邦人を照らす啓示の光、あなたの民イスラエルの誉れです。」(2:31~32)キリストが世界を照らす光である、という告白こそ、実にルカによる福音書が表す思想をまとめる最も肝心な箇所です。

ルカは、シメオンという人物の口を通して、このような告白をしています。シメオンは、自分の人生が神より授かったある約束によって支えられていると信じていました。その約束とは、自分が必ずメシア(=救い主)に会うのだ、というものであります。

さて、シメオンは、ある日、マリアとヨセフに抱かれて聖殿に来た幼子のキリストに出会いました。彼は、自分の手で幼子を抱き、その上なき平和な幼子の顔を見た瞬間、自分が今まで待ち望んできた瞬間が到来したと直感したのであります。彼は、神秘的な興奮と驚異感に満ち溢れ、新しい時代が幕を上げる瞬間の感激を味わっていたのです。

クリスマスが与えるその感激が皆様にゆたかにありますようにお祈りします。

金 承哲(金城学院宗教総主事代行・大学宗教主事)

みどり野会より

「みどり野会」は金城学院の同窓会です。1889年に創立された学院の、約80,000人の卒業生が集う会です。

「みどり野会」という名前は、大正9年(1920年)に、聖書の詩篇第23篇

『主はわが**ほしゅ**牧者なり われ**とも**乏しきことあらし
主は我を**われ**みどりの野に**の**ふさせ
い**みきは**こひの水濱にともなひたまふ』

から名付けられました。

神さまによってこの学院に集められた私たちが、卒業後再び母校に集まり

いこいの時を過ごすという意味で、

「みどり野会」はいつも皆さんとともにあるのです。

本誌「with Dignity」は、金城学院のホームページ(<http://www.kinjo-gakuin.jp/>)でもご覧いただけます。ご意見、ご感想をお寄せください。

(また、現在お送りしております方で、住所変更や購読中止を希望される方もホームページからご連絡ください。)

with Dignity = 金城女学校・第6代校長 エラ・ヒューストンが、外出する生徒に「金城の生徒として「You must have dignity」と話しかけたことに由来しています。「dignity」は、尊厳・品位の意。